



四・二八中央総決起集会に公然と登場した六兵士。  
左から、福井茂之一等陸士、与那嶺均一等陸士、小多基実夫一等空士、  
小西誠三等空曹、内藤克久一等陸士、河端定男一等陸士

## 決起した反戦六兵士とともに 沖縄派兵を阻止せよ

一九七二年四月二七、二八日、日本階級闘争は歴史的な大飛躍をなした。兵營の厚い壁が階級闘争の熱気で溶け解けはじめたのである。「人民の兵士」であることを固くもちかう五名の兵士が小西三曹と共に兵營内部から決起したのである。

四・二八中央集会。それは「軍服を着た人民」たる兵士と沖縄派兵阻止を固く決意する八、〇〇〇労働者・学生・高校生の「兵士と人民の一大交流会」であった。

日本帝国主義軍隊・自衛隊は、ベトナム・インドシナ人民、朝鮮沖繩人民に押しつけられ、強制されて極東反革命軍隊としての道を四次防・沖縄派兵として歩みはじめたその第一歩にして、その内部からの兵士自身の反撃にみまわれてしまった。

日本における帝国主義闘争、とりわけ四次防粉砕・自衛隊派兵阻止闘争は四・二七、二八の切り開いた地平に立つことなしに一步たりとも前進しない。

決起した反戦六兵士とともに、五・二五自衛隊派兵阻止・全国総動員闘争に起る。

### 自衛隊沖縄派兵に大打撃 —反戦兵士の決起—

兵士達はついに決起を開始した。つづける沖縄島の基地撤去闘争から防衛する四次防の第一の任務とした。

その要求書の第一にいわく「われわれは、侵略のせん兵とならぬ。沖縄派兵を即時中止せよ」と。四次防・自衛隊沖縄派兵・釣魚台の領有と軍事力の展開。これに日本帝国主義は自らの生存の一切をかかえてその第一歩を踏み出した。農民に銃を向け、立川基地への治警備をたごも人民の兵士彼等が生まれもなく人民の兵士である。反帝国主義・アジア革命の兵士である。

アジア反革命軍事支配体制の中核にして絶対的支柱たるアメリカ帝国主義軍隊はベトナム・インドシナ人民の解放革命の前に敗北し崩壊を開始した。アメリカ帝国主義独自のアジア反革命軍事支配はその絶対的力を枯渇させてしまった。アメリカ帝国主義はアジア革命の成長と発展を前にして、単独でアジアを支配し、革命を圧殺するのような力ももっていない。

アメリカ帝国主義はアジア革命を圧殺するためにその反革命の統率に共につづき相手を求めた。

日本帝国主義は、アメリカ帝国主義のこの要請を、強制的に受けよとしていた。だがアメリカ帝国主義のアジア反革命軍事支配なくしては日本帝国主義の安定はない。アメリカ帝国主義のアジアでの敗北はすなわち日本帝国主義の敗北である。そうであるからこそ日本帝国主義は自らの生存と延命をかねて、枯渇したアメリカ帝国主義のアジア革命を補完し、補強し肩代りせんとしているのである。とりわけ日本帝国主義の生命線そのものたる沖縄・朝鮮・極東において、崩れゆく反革命軍事体制を補強・再編することこそ火急の任務である。こうしていま日本帝国主義は巨万の人民の血税を投じて、極東反革命軍隊・自衛隊を建設せんと四次防計画を作成、強行しようとしている。まず何よりもアジア・極東反革命軍事体制の中核、在沖米軍基地を、おびやか

### 「声明」「要求書」をより多くの兵士・労働者大衆の手もとに

日本階級闘争はいま、「武装した人民」の階級闘争の内部に持つ新しい歴史のページを切り開いた。忍耐力にかけ、苦々たる兵士の工作という作業に耐えられず、ついに自らの武器で人民の武装の代行をなししげんとした連合赤軍の闘士たち。いまこそわれわれとともに開始された日本階級闘争の新しい段階に突入しようではないか。

五・二五沖縄「協定」の成立、自衛隊派兵の大展開を前にして、六名の反戦兵士の「派兵阻止決起」に見舞われた政府・防衛庁はあわてふためて、自衛隊法四六条なるものを適用するの恫喝をかけた。

江崎はいつ「自衛隊の政治活動の禁止」にふれると、防衛庁、自衛隊幹部諸君、諺言が日々あるいは公然と政府庁舎、防衛庁でやっている自衛隊の打合わせは政治活動ではないかというのか、あるいは革命活動ではないかというのか、あるいは赤坂あたりは公然とやっている赤坂あたりは公然とやっていると、隊内教育と称する自衛隊員たちへの反革命教育は政治活動ではないかというのか、そこには反革命的な政治、ブルジョアにも奉仕した政治以外の何ものでもない。

兵士にとりて労働者人民大衆と同様、あるいは反革命的・反動的な政治が、それこそ革命的進歩的政

本号の内容

- 二面 四・二八闘争報告／反戦六兵士の声明・要求書・要求目一全文
- 三面 「反戦六兵士、沖縄派兵拒否を宣言」一四・二七与那嶺均一等陸士とのインタビュー／富村公判闘争
- 四・五面 声明「自衛隊沖縄派兵阻止・ベトナム革命勝利にむかって」を確信を固め、戦線を広げよう
- 六面 「反戦兵士の隊内決起とわが反軍闘争方針」
- 七面 メーデー・アピール／四・一九闘争報告／狭山四月公判闘争報告
- 八面 「ヴェトナム革命の真の道を」ルジュー紙論説あり

「ヴェトナム永久革命の完全勝利を」

- 5 小西叛軍裁判を支援する 午後1時
- 7 労働者市民集会 牛込公会堂
- 5 四次防粉砕・自衛隊の沖 午後1時
- 13 縄派兵阻止総決起集会 主催 ILO 学生インター

## 5 首都総結集

15 午後1時 日比谷野音

# らとちるの流合の士兵の学農労

# 4.28

## 沖縄へ一兵たりとも送るな

## 反戦米兵も登場、六兵士と固い握手

八〇〇〇の大歓声と拍手が天を揺るがすばかりの勢いでわきあがる。制服、制帽に身を固めた反戦米兵十名が壇上に登った。フラッシュがたかれ、林立する赤旗が揺れ、満場は絶えず鳴りやまない拍手が続く。司会が制止しても止まない。歓声、拍手と大歓声、沖縄人民の生死をかけた闘いに、いまここに本土の労働兵士が派兵阻止の決意も固く合流したのだ。歴史的な偉大な闘いが、いまここに、現に切り拓かれたのだ。

### 治安部隊としての 実態を暴露

拍手を制して小西曹が話しかけ始める。五人の兵士は、口をきりしどつめ、微動だにしない。「沖縄人民は、日本軍を三兵たりとも沖縄に入れない闘争を開いている。一人の海外労働者が発見した自衛隊物資の秘密裡の搬入にたいして、あつといまに抗議の闘争が燃え広がった一事を、よいまも侵略の尖兵自衛隊は勇盾と動搖の只中に居る。二八万自衛隊の中でわれわれは、大唱和する。読ま終つた内藤一士は、自分なげこに決起するに、共闘のめいぞう。(大拍手) いたつた力を加力した。」「わたしは、ベトナム人民、沖縄人民にたいする抑圧者であったことを深く恥じます。」「国民に愛と力強く、決起の理由を述べ、三里塚農民に加入された。」「農民の子として、闘う人民への弾圧を拒否する」ことを決意したと語った。

ついで、河端定一少佐が、日本進出、毅然とした態度で、日本の全ての労働人民に向けた声援を読みあげた。河端一士はそのあと、決起の理由を述べ、三里塚農民に加入された。」「農民の子として、闘う人民への弾圧を拒否する」ことを決意したと語った。

## 中央総決起集会



国際的に結合した反戦闘争、壇上で固い握手

一九七二年四月二十七日、いままで日本帝国主義が、再びアジア人民への圧迫を繰り返すに乗り出すとしているとき、われら自衛隊兵士は、闘う労働者、農民、学生と緊く連帯し、闘いに合流したことをここに明らかにする。

われら自衛隊兵士は、すべての労働者人民がそうであるように、歴史を築いて以来、兵營監獄の中を押しよせられ、差別される。あらゆる屈辱を強いられてきた。だが、われらは、もはやこの帝国主義支配者どもの横暴と抑圧に、絶対耐えることはできない。われらは、自ら労働者人民の立場に立ち、労働者人民とともに、われらの人間としての解放という偉大な事業に向けて前進すべきときが来たことを、今こそ、はっきりと確信する。

沖縄で、南朝鮮で、ベトナムで、いや世界で人民の怒りの炎は燃えあがっている。ひとりで軍隊の例外外ではありえない。アメリカの兵士たちの闘いを見よ。南朝鮮の兵士たちの闘いを見よ。いまや、フランスでも、西ドイツでも「軍服を着た人民」たちは、労働者人民とともに闘うことを明らかにしているのではない。

「私は「自由のため」にアジアに来るのだと思つて、しかしそれはすべてウソであり誤りだ。沖縄の農民は基地なしで生活する権利がある。ベトナムでの米軍の惨行を行なうためにあめればならない。米日共同の核武装という陰謀を打ち破らねばならない。すべての米軍は日本およびアジアから撤退すべき。六人の兵士から撤退すべき。米軍の反戦米兵と自衛隊の反戦米兵が合流し、握手し、闘うべき。われわれは勝利する」と語った。「わたしは、沖縄百万同胞の派兵を拒否する。(拍手・歓声) 小西、内藤、河端、福井、少多、那覇の反戦六兵士の以上の発言は、大歓声と大拍手によつては、はるかかなる言葉は、いまや私の心に決起し、あるいは遠くから合流する中で粉砕された。」



決起を呼びかける反戦米兵

六兵士が壇上に残っているとき、一人の反戦米兵がマイクロフォンをかき、六兵士と固い握手して語った。「私は、三里塚農民と自衛隊の反戦米兵が合流し、握手し、闘うべき。われわれは勝利する」と語った。「わたしは、沖縄百万同胞の派兵を拒否する。(拍手・歓声) 小西、内藤、河端、福井、少多、那覇の反戦六兵士の以上の発言は、大歓声と大拍手によつては、はるかかなる言葉は、いまや私の心に決起し、あるいは遠くから合流する中で粉砕された。」

### 反戦米兵が登壇

「私は「自由のため」にアジアに来るのだと思つて、しかしそれはすべてウソであり誤りだ。沖縄の農民は基地なしで生活する権利がある。ベトナムでの米軍の惨行を行なうためにあめればならない。米日共同の核武装という陰謀を打ち破らねばならない。すべての米軍は日本およびアジアから撤退すべき。六人の兵士から撤退すべき。米軍の反戦米兵と自衛隊の反戦米兵が合流し、握手し、闘うべき。われわれは勝利する」と語った。「わたしは、沖縄百万同胞の派兵を拒否する。(拍手・歓声) 小西、内藤、河端、福井、少多、那覇の反戦六兵士の以上の発言は、大歓声と大拍手によつては、はるかかなる言葉は、いまや私の心に決起し、あるいは遠くから合流する中で粉砕された。」

### 闘争・公判日程

- 5.1 メーデー 代々木公園
- 5.7 小西叛軍裁判闘争を支援する労働者・市民集会 牛込公会堂 午後一時 主催 実行委員会
- 5.8 荒木さん公判闘争 東京地裁 午後一時
- 5.10 小西叛軍裁判支援新潟集会
- 5.13 四反防衛・日帝の約条台略奪阻止・春闘勝利。自衛隊派兵阻止総決起集会 南部労政会館 午後一時 主催 ILC・学生インター・F・H
- 5.15 沖縄返還協定粉碎 首都総決起 日比谷野音 午後一時 主催 全国反戦・関東叛軍 東京入管闘

### 要求書

- 一、われわれは、戦争に反対する人間としての良心と人格をかけて、この要求書を自衛隊長官に提出するものである。
- 二、われわれは、従来から四次防、沖縄派兵あるいは川崎強行移駐などの問題について、国民各層の鋭い糾弾を受けてきた。特に、戦後二十年間の長きにわたって軍事監獄の中に閉じ込められ、屈辱と圧迫を強いられつづけてきた沖縄百万の労働者、農民は、老若男女を問わず一人一人が自衛隊の沖縄派兵に怒りのこぶしを振りあげている。
- 三、われわれは、こうした事実を直視し、かつまた沖縄出身隊員砂辺二士の自殺などに衝撃を受け、一体、われわれが、いかなる態度をとるべきか、真剣に考えてみるを得なかつた。
- 四、かかるに、先般来、われら自衛隊がとった行動は何であるのか、秘密裡に物資を沖縄に搬入するなど、あらゆる形をとって、沖縄人民への圧迫を強めているのではないのか。
- 五、われわれは、沖縄派兵、釣魚台(尖閣列島)略奪のせん兵となることを自らの良心をかけて拒否する。見よ、自衛隊の侵略軍隊への強化は、われわれにあらゆる屈辱を強しようとしていくではないか。
- 六、入隊以来、われわれは、あらゆる隊内の非民主的教育、生活、訓練に耐えてきた。だがこのような事象の中で、われわれは、もはや黙っていることはできない。われわれは、われわれの労働者、市民としての権利を断乎として要求する。そして、なによりも沖縄派兵を直ちに中止することを要求する。
- 七、われわれは、侵略のせん兵とならない。沖縄派兵を即時中止せよ。
- 八、われわれは、労働者、農民に銃を向けず。
- 九、川崎基地への治安配備を直ちにやめよ。
- 十、われわれに、生活訓練・勤務の条件の決定に参加する権利、団結の権利を認めよ。
- 十一、われわれに、集会・出版の自由など、あらゆる表現の自由を認めよ。
- 十二、われわれは、不当な命令には従わない。命令拒否権を確定せよ。
- 十三、幹部、曹、士の一切の差別をなくせ。
- 十四、勤務時間外のあらゆる拘束を廃止せよ。
- 十五、私物点検、上官による貯金の管理などの一切の 인권侵害をやめよ。
- 十六、小西三等空曹の懲戒免職をとり消し、直ちに原隊に復帰させよ。
- 十七、われわれは、自衛隊であると同時に労働者・市民である。労働者・市民としてのすべての権利を要求する。
- 一九七二年四月二十七日

防衛庁長官 江崎真澄殿

一九七二年四月二十七日、いままで日本帝国主義が、再びアジア人民への圧迫を繰り返すに乗り出すとしているとき、われら自衛隊兵士は、闘う労働者、農民、学生と緊く連帯し、闘いに合流したことをここに明らかにする。

侵略のせん兵となることを拒否する

反戦六兵士、沖縄派兵拒否を宣言

一九七二年四月二十七日、いままに日本帝国主義が、再びアジア人民への圧迫と殺りくに乗せんとしているとき、われら自衛隊兵士は、闘争労働者、農民、学生と堅く連帯し、闘いに参加することをここに明らかにする。(声明より)

与那嶺兵士(沖繩派兵要員)先頭に

一九七二年四月二十七日、この日(会見)として、四二八連隊三団付は、日本における戦争準備、その体と隊友反戦によって実現されたものとして人民にとって永遠の記念日となるであろう。



4月27日俳優座で記者会見を行なう反戦六兵士。左から、福井一等陸士、内藤一等陸士、与那嶺一等陸士、小西三等空曹、小多一等空士、河緒一等陸士。

と云った。上官は、沖縄のほんの一部の人が反対しているとき「ない」とウソをついた。また、旧軍の沖縄兵にたいする残虐行為は、これに及ぶ。兵士一人の権利、木下三三郎の拒否、表現の自由と、これら重要なものである。

「福井一等陸士」 福井一等陸士は、自衛隊に入隊し、動員された。政治活動の禁止も理由で、自衛隊内での活動も制限された。しかし、自衛隊員としての自覚をもち、同志と協力して闘った。

与那嶺一等陸士とのインタビュー 起天後の那覇軍港集会所で、行った五〇名程度の集まりがあった。「民主主義の教育では、暴力・武装は良くない」といわれてきた。だが、自衛隊員としての自覚をもち、同志と協力して闘った。

小西三曹が特別講演 学生インター政治集会 二五〇名結集 四月二十五日、東京地裁公法廷で開かれた第二回公判は、五、六名の自衛隊員が被告として起訴された。

「検事こそ有罪、二年の刑に服せ」富村さん 有罪判決粉砕—富村さん即時奪還のため 判決公判(第一七回)に総結集を 四月二十九日、東京地裁公法廷で開かれた第三回公判は、五、六名の自衛隊員が被告として起訴された。

自衛隊員としての自覚 自衛隊員としての自覚をもち、同志と協力して闘った。上官の命令にたいしては、断然拒否した。

自衛隊員としての自覚 自衛隊員としての自覚をもち、同志と協力して闘った。上官の命令にたいしては、断然拒否した。

自衛隊員としての自覚 自衛隊員としての自覚をもち、同志と協力して闘った。上官の命令にたいしては、断然拒否した。

自衛隊員としての自覚 自衛隊員としての自覚をもち、同志と協力して闘った。上官の命令にたいしては、断然拒否した。



# 労働者人民・兵士の革命的

このように見れば、中国人民やベトナム人民の軍隊は単に大衆の軍隊である。独立解放の要求を燃やした人民の全体的な意志の表現である。そして、これらは、人民の全体的意志を表現する軍隊として組織される。

日本自衛隊は、これと対称的に組織された。日本自衛隊は、日本の国家権力を維持するために組織された。これは、日本の国家権力を維持するために組織された。これは、日本の国家権力を維持するために組織された。

## 労働者人民・兵士の革命的合流をめざせ

以上からすれば、大衆的叛軍闘争の目的を以下のようにつくることができる。

すなわち、労働者人民大衆の軍隊・自衛隊にたいする大衆的闘争・激突を基礎として、労働者人民大衆自身によって担われた下級兵士との革命的合流をめざす運動である。敵支配階級による軍隊・兵士の社会的・政治的隔離(真空化)、労働者階級人民自身による軍隊・兵士にたいする平和主義的・政治的隔離、全ての労働者人民自身による二重の兵営の壁を敵支配階級にたいする闘争と自身の政治的解放によって溶かしてしまわなければならない。

なかつたのである。日本自衛隊は、極端なアメリカ帝国主義が建築した風化した仮屋にすぎないのである。かくして政治的に歴史的に崩壊してしまつた軍隊にたいして新しい政治的支柱と価値体系を与えることができるのは、労働者階級・人民だけなのである。中国・朝鮮・ベトナム人民・そして沖繩・本土労働者人民、そして沖繩・本土労働者人民に統一を向けるのではなく、これら労働者人民の真実の戦友として闘いぬくこととする新しい人民の価値の世界のみが軍隊・兵士に生きた魂を吹きこむことができるのである。これこそが戦前・戦時・戦後というアジア永久革命との関係における日本労働者階級・人民の問われている歴史的任務なのである。

## 労働者自衛武装と叛軍闘争

大衆的叛軍闘争の新しい歴史的場面について以上述べたのは、国際的・政治的諸関係から見ると、次に労働者人民自身によって直接に自己の要求を掲げて闘争の側面において述べらるべきこととする。

この点で第三に、労働者人民の大衆的自衛武装の原則が問われ始めたことを見なければならない。この点で第三に、労働者人民の大衆的自衛武装の原則が問われ始めたことを見なければならない。この点で第三に、労働者人民の大衆的自衛武装の原則が問われ始めたことを見なければならない。

由によって(安保条約と並立主義) 観念的指針と感情的態度の水準に引き上げられた。

だがアメリカ帝国主義の「種」からの後退は、ドクトリンの裏面に隠れての遂行は、軍事戦略的には歴史的な安保条約を自衛隊の関係を逆転させるものである。つまり、アメリカ帝国主義と安保条約の陰で保護されてきた日本帝国主義の軍事(的)的役割が、その政治的能力がどの程度まで、公然と極東アジア人民と日本労働者人民の間に政治的浸透を遂げざるを得ないのである。アメリカ帝国主義の歴史的障壁が相対的に取り除かれるや否や、アメリカ帝国主義の軍事戦略と自衛隊は(労働者人民による) 直接的闘争の側面に投げ込まれたのである。「世界革命」第二三三頁、一月一日。

## 反戦兵士を全人民の隊伍で防衛し、小西叛軍裁判勝利・隊友反戦の強化を

その第二の任務は、自衛隊沖繩派兵拒否を闘った反戦兵士六名の行動とその歴史的意義を、ブルジョア宣伝手段によつてではなく、われわれ自身の手段と内容によつて、全ての沖繩労働者人民・本土労働者人民・自衛隊兵士に告知させることである。われわれは本土労働者人民の全にたいして次のことを訴へるものである。すなわち、全ての労働者人民自身がこの歴史的意義を把握してこの反戦兵士たちと同一連帯の精神を示し、自己の隊伍でこの兵士たちを敵権力から無条件に防衛せよ、と。そして、この決定的かつ歴史的な決起にたいして、自らの任務として全ての自衛隊基地の下級兵士たちを、自衛隊兵士にたいして、公衆と訴へよ。

総力で自衛隊を沖繩へ一兵たりとも行かせるな、米軍立川基地への自衛隊移駐を阻止せよ、北富士・能勢をめぐり、一切の米軍基地撤去・解体、反自衛隊闘争に勝利せよ、四次防衛線先取りに示された野党各派の議会の取組を今こそかかると大衆的闘争の発展を促せよ、大衆的叛軍闘争の発展のために、今こそ労働者人民以上の実現をめざして闘いぬかなければならない。

## 労働者人民・兵士の革命的合流をめざせ

以上からすれば、大衆的叛軍闘争の目的を以下のようにつくることができる。

すなわち、労働者人民大衆の軍隊・自衛隊にたいする大衆的闘争・激突を基礎として、労働者人民大衆自身によって担われた下級兵士との革命的合流をめざす運動である。敵支配階級による軍隊・兵士の社会的・政治的隔離(真空化)、労働者階級人民自身による軍隊・兵士にたいする平和主義的・政治的隔離、全ての労働者人民自身による二重の兵営の壁を敵支配階級にたいする闘争と自身の政治的解放によって溶かしてしまわなければならない。

治安訓練拒否の呼びかけ―無条件の政治活動の自由という権利は労働者人民大衆の利益そのものである。全兵士大衆の共通の利益なのである。自衛隊の政治的動向が促進されれば、多くの人民の兵士が登壇する可能性が増大している現在、まさに小西裁判闘争は天の門の闘いに他ならないのである。

かくして小西裁判闘争の勝利―自衛隊阻止・小西三曹の無条件隊内復帰は、全労働者人民の力がかちつけられなければならない。全ての労働者人民は小西裁判支援委員会に結集して小西裁判闘争を勝利させよ。

## 労働者自衛武装と叛軍闘争

大衆的叛軍闘争の新しい歴史的場面について以上述べたのは、国際的・政治的諸関係から見ると、次に労働者人民自身によって直接に自己の要求を掲げて闘争の側面において述べらるべきこととする。

この点で第三に、労働者人民の大衆的自衛武装の原則が問われ始めたことを見なければならない。この点で第三に、労働者人民の大衆的自衛武装の原則が問われ始めたことを見なければならない。この点で第三に、労働者人民の大衆的自衛武装の原則が問われ始めたことを見なければならない。

7. 六九年一月小西兵士の登場後、なせ大衆的叛軍闘争が構築できなかったのか。

その客観的原因は、日本労働者人民の絶対平和主義的意識の歴史的・物質的根拠の崩壊が依然として希薄だったことと求められる。少数の集団が武器をもって帝国主義国家権力への絶望的挑戦を行なつたとしても、この事実を一夜にして振返さざるを得ない。

大衆的叛軍闘争の新しい歴史的場面について以上述べたのは、国際的・政治的諸関係から見ると、次に労働者人民自身によって直接に自己の要求を掲げて闘争の側面において述べらるべきこととする。

この点で第三に、労働者人民の大衆的自衛武装の原則が問われ始めたことを見なければならない。この点で第三に、労働者人民の大衆的自衛武装の原則が問われ始めたことを見なければならない。この点で第三に、労働者人民の大衆的自衛武装の原則が問われ始めたことを見なければならない。

9. 自衛隊の政治的動向が危機が増大し、小西三曹につく反戦兵士六名が集団で登場し、沖繩・本土労働者人民の反基地・反自衛隊闘争が高揚するにつれて、新しい歴史的場面が、われわれは大衆的叛軍闘争の任務を鮮明に設定して闘いぬかなければならない。

その第一の任務は、自衛隊の政治的動向と反戦兵士六名の決起を的確に捉えて本土労働者人民の総力をつくつての沖繩派兵阻止闘争を展開することである。立川基地自衛隊移駐阻止をはじめとする四次防衛線・反自衛隊闘争を展開させることである。叛軍闘争としての相対的独立性の発展が、労働者人民と軍隊・自衛隊との直接的衝突なしにはありえない以上、大衆的叛軍闘争のなによりも第一の任務は以上のごとくに帰結するのである。敵、日本帝国主義・自衛隊にたいして、さかの休息も与えず、沖繩労働者人民の米軍基地撤去・自衛隊阻止闘争を勝利させよ、本土労働者人民の

その第二の任務は、自衛隊沖繩派兵拒否を闘った反戦兵士六名の行動とその歴史的意義を、ブルジョア宣伝手段によつてではなく、われわれ自身の手段と内容によつて、全ての沖繩労働者人民・本土労働者人民・自衛隊兵士に告知させることである。われわれは本土労働者人民の全にたいして次のことを訴へるものである。すなわち、全ての労働者人民自身がこの歴史的意義を把握してこの反戦兵士たちと同一連帯の精神を示し、自己の隊伍でこの兵士たちを敵権力から無条件に防衛せよ、と。そして、この決定的かつ歴史的な決起にたいして、自らの任務として全ての自衛隊基地の下級兵士たちを、自衛隊兵士にたいして、公衆と訴へよ。

以上からすれば、大衆的叛軍闘争の目的を以下のようにつくることができる。

すなわち、労働者人民大衆の軍隊・自衛隊にたいする大衆的闘争・激突を基礎として、労働者人民大衆自身によって担われた下級兵士との革命的合流をめざす運動である。敵支配階級による軍隊・兵士の社会的・政治的隔離(真空化)、労働者階級人民自身による軍隊・兵士にたいする平和主義的・政治的隔離、全ての労働者人民自身による二重の兵営の壁を敵支配階級にたいする闘争と自身の政治的解放によって溶かしてしまわなければならない。

付記  
なお小西叛軍裁判闘争の経緯は「社会主義」に記されている。

# 四・一九朝鮮革命二二周年集会

## 釣魚台をめぐる社・共の排外主義と対決

### 一五〇〇名が結集

四・一九革命二周年、自衛隊 東京入警闘争 全国反戦 関東を結集して行われた。国家非常事態宣言の朝鮮人民軍と連帯して、今春自衛隊幹部と兵士とを釣魚台に閉じ込めようとする闘争を宣言した。



4・19革命12周年集会、1500名の労働者、学生が結集

「四・一九革命二周年、自衛隊 東京入警闘争 全国反戦 関東を結集して行われた。国家非常事態宣言の朝鮮人民軍と連帯して、今春自衛隊幹部と兵士とを釣魚台に閉じ込めようとする闘争を宣言した。」

「四・一九革命二周年、自衛隊 東京入警闘争 全国反戦 関東を結集して行われた。国家非常事態宣言の朝鮮人民軍と連帯して、今春自衛隊幹部と兵士とを釣魚台に閉じ込めようとする闘争を宣言した。」

「四・一九革命二周年、自衛隊 東京入警闘争 全国反戦 関東を結集して行われた。国家非常事態宣言の朝鮮人民軍と連帯して、今春自衛隊幹部と兵士とを釣魚台に閉じ込めようとする闘争を宣言した。」

「四・一九革命二周年、自衛隊 東京入警闘争 全国反戦 関東を結集して行われた。国家非常事態宣言の朝鮮人民軍と連帯して、今春自衛隊幹部と兵士とを釣魚台に閉じ込めようとする闘争を宣言した。」

「四・一九革命二周年、自衛隊 東京入警闘争 全国反戦 関東を結集して行われた。国家非常事態宣言の朝鮮人民軍と連帯して、今春自衛隊幹部と兵士とを釣魚台に閉じ込めようとする闘争を宣言した。」

# 全電通中電分會青年會議

## 徐勝君の署名闘争を貫徹

### 大阪

「全電通中電分會青年會議」は、徐勝君の署名闘争を貫徹する。大阪で開かれた青年會議では、徐勝君の署名闘争を貫徹する方針が決定された。

「全電通中電分會青年會議」は、徐勝君の署名闘争を貫徹する。大阪で開かれた青年會議では、徐勝君の署名闘争を貫徹する方針が決定された。

「全電通中電分會青年會議」は、徐勝君の署名闘争を貫徹する。大阪で開かれた青年會議では、徐勝君の署名闘争を貫徹する方針が決定された。

# メーデー・アピール

万国の労働者、団結せよ。世界はわたしたちの手にある。メーデーは、労働者の権利を主張する日である。世界はわたしたちの手にある。メーデーは、労働者の権利を主張する日である。

メーデーは、労働者の権利を主張する日である。世界はわたしたちの手にある。メーデーは、労働者の権利を主張する日である。

メーデーは、労働者の権利を主張する日である。世界はわたしたちの手にある。メーデーは、労働者の権利を主張する日である。

メーデーは、労働者の権利を主張する日である。世界はわたしたちの手にある。メーデーは、労働者の権利を主張する日である。

メーデーは、労働者の権利を主張する日である。世界はわたしたちの手にある。メーデーは、労働者の権利を主張する日である。

# アジア社会主義合衆国樹立へむけて

## メーデーをベトナム軍民への連帯の日とせよ

ベトナム軍民がメーデーに寄せる。メーデーは、労働者の権利を主張する日である。世界はわたしたちの手にある。メーデーは、労働者の権利を主張する日である。

メーデーは、労働者の権利を主張する日である。世界はわたしたちの手にある。メーデーは、労働者の権利を主張する日である。

メーデーは、労働者の権利を主張する日である。世界はわたしたちの手にある。メーデーは、労働者の権利を主張する日である。

メーデーは、労働者の権利を主張する日である。世界はわたしたちの手にある。メーデーは、労働者の権利を主張する日である。

# 狭山差別裁判、徹底糾弾—四月公判闘争

## 警察のデッチあげを暴露

### 5-6月闘争で、「9月結審」を粉碎しよう

狭山差別裁判は、警察のデッチあげを暴露する。五月五日は、降りしきる雨にもかかわらず、二〇〇〇名の結集が実現された。警察のデッチあげを暴露する。

狭山差別裁判は、警察のデッチあげを暴露する。五月五日は、降りしきる雨にもかかわらず、二〇〇〇名の結集が実現された。警察のデッチあげを暴露する。



16・17の部落解放全国婦人集会のあと結集した婦人たち

# 磐城高裁判・判決公判闘争に

## 全国から結集せよ

### 福島・地裁前、午前八時結集

磐城高裁判・判決公判闘争に全国から結集せよ。福島・地裁前、午前八時結集。五月五日、磐城高裁判の判決公判闘争に全国から結集せよ。

# 都庁職員の差別を糾弾

都庁職員の差別を糾弾。五月五日、都庁職員の差別を糾弾する。五月五日、都庁職員の差別を糾弾する。

五月五日、都庁職員の差別を糾弾する。五月五日、都庁職員の差別を糾弾する。

五月五日、都庁職員の差別を糾弾する。五月五日、都庁職員の差別を糾弾する。

# ベトナム革命との真の連帯を



vive  
l'offensive  
de printemps  
du FNL!

## ルージュ紙 論説

論説の掲載されたルージュ紙一面。  
「解放民族戦線の春季攻勢万才！」と書かれている。

今回のベトナム人民の大攻勢と米帝国主義者による北爆をめぐり、米帝国主義者の侵略行為を糾弾し、インドシナ革命の勝利を叫ぶ数千人のデモに包囲された。

成功の妨げは、明らかで、抵抗の力にかかっている。長期的に見れば、ベトナム化計画そのものが破綻している。もしも、ベトナム化計画が破綻すれば、米軍撤退の時期は、ベトナムの革命勢力が、米軍撤退の時期を待つ必要がなくなる。

米軍の撤退は、ベトナム人民の大攻勢の結果、米軍撤退の時期は、ベトナムの革命勢力が、米軍撤退の時期を待つ必要がなくなる。

革命のマルクス主義者はインドシナ情勢の進展に意を打たれ、一部の日見守り、他方の政治的混乱、多くの悲観論にもかかわらず、われわれは、決定した判断を前に、維持し、正しき政治分析は、あつた。

もまず力に徹底的に戦い続けていることの結果である。われわれの任務は、この時期的な動員は容易なことではない。しかし、革命家として、われわれは、他の組織が欠けた状態の中で、インドシナ革命戦線支援の反帝キャンペーンを、ひるがえり、われわれはフランス共産党の事前準備の準備もなく、行動後にも行わない年中行事式反戦キャンペーンを批判してきた。

イギリス支部 (IMG) 大会討論文書を発表

イギリスにおけるわれわれの兄弟「レッド・モル」(赤いモル)は、国際マルクス主義グループ (IMG) 第四インターナショナル (I.M.G. 第四インターナショナル) によって作成された「イギリスにおける第四インターナショナルの建設」と題する長文のテーゼ草

インターナショナル・レポート

英軍隊の脱走兵 スウェーデンで 亡命権を要求

英軍部隊から脱走したケヴ (Kevin Cadenhead) は、現在、スウェーデンで政治的亡命権を要求している。スウェーデンにおけるアメリカ脱走兵を主体として組織された第四インターナショナルと密接に協力している革命的アメリカ人民党 (RAP) が彼のために活動している。

イスラエル社会主義組織 ISO 分裂す

「パン」(Matzpen) 紙を発行し、イスラエル内部でオシムスの女子排斥主義を闘っているイスラエル社会主義組織 (ISO) に分裂があった。多数派は第四インターナショナルの支持を、少数派は反ソ連主義の立場にたっている。多数派は、第四インターナショナルのソ連の同志たちによって発行されている「ラフ」誌を永久革命の立場にたつて、ユダヤ人の自治権をプロレタリア独裁の枠内においての必要と見做している。(S.M)

トロツキー著作集 (3)  
1938-39上  
中野潔訳・二〇〇円・四六判上製  
柘植書房  
東京都千代田区猿樂町二一七九  
電話 二九一八二一九  
振替東京四三三八七

